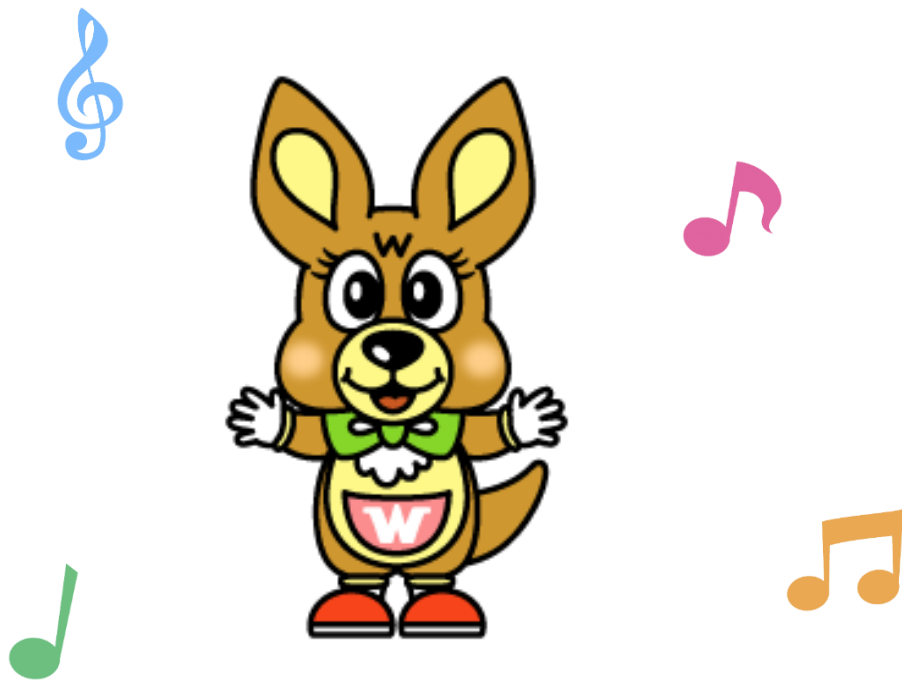


第3次 蕨市

子ども読書活動推進計画 (案)



令和 6 年6月

蕨市・蕨市教育委員会

目次

はじめに.....	1
-----------	---

第1章 計画策定の趣旨

1. 計画の位置づけ	2
2. 計画の目的	2
3. 計画の基本方針	2
4. 計画の期間と対象	3
5. 計画の目標値	3

第2章 本市における子ども読書活動の現状と課題

1. 小学生・中学生の読書状況に関するアンケートの調査結果	4
(1) 調査概要	4
(2) 調査結果	5
2. お子さんの読書環境についてのアンケート(保護者向)の調査結果	12
(1) 調査概要	12
(2) 調査結果	13
3. 前計画の取組と調査結果からみる課題	18
(1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進	18
(2) 保育園・幼稚園における子ども読書活動の推進	18
(3) 学校等における子ども読書活動の推進	19
(4) 図書館における子ども読書活動の推進	19

第3章 読書活動を推進する具体的な取組

取組 1. ブックススタート	20
取組 2. セカンドブック	20
取組 3. 読書手帳等	20
取組 4. 蕨市おすすめ図書リスト	20
取組 5. 保育園・幼稚園における読書活動	20
取組 6. 小学校・中学校における読書活動	21
取組 7. 乳児や幼児と保護者を対象とした読み聞かせ講座やお話会	22
取組 8. ボランティア活動の促進	22
取組 9. 福祉・児童センターと図書館の連携	22
取組 10. 分館の図書資料の整備	22
取組 11. 青少年の読書活動の支援	22
取組 12. 「子ども読書の日」と「蕨市健やかメディア宣言」等の普及・啓発	23
取組 13. 図書館の充実	23

資料

第3次蕨市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要領	24
第3次蕨市子ども読書活動推進計画策定委員名簿	24

はじめに

読書は、未知の世界を示し、新たな知識を与えてくれます。また、著者や登場人物の視点に立って物事を考えることによって、多くの体験ができます。こうした体験を通して、「人間性」を豊かにしていくことが期待されます。

とりわけ子どもの時期の読書活動は、成長課程において、言葉を学び、感性を磨き、表現力・創造力を高め、人生を豊かなものとするほか、自分以外の人の気持ちを酌む共感力を養い、困難な状況に陥っても挫折しない強い心を育むことができるなど、生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。そのための子どもの読書環境の整備を推進していくことが大変重要です。

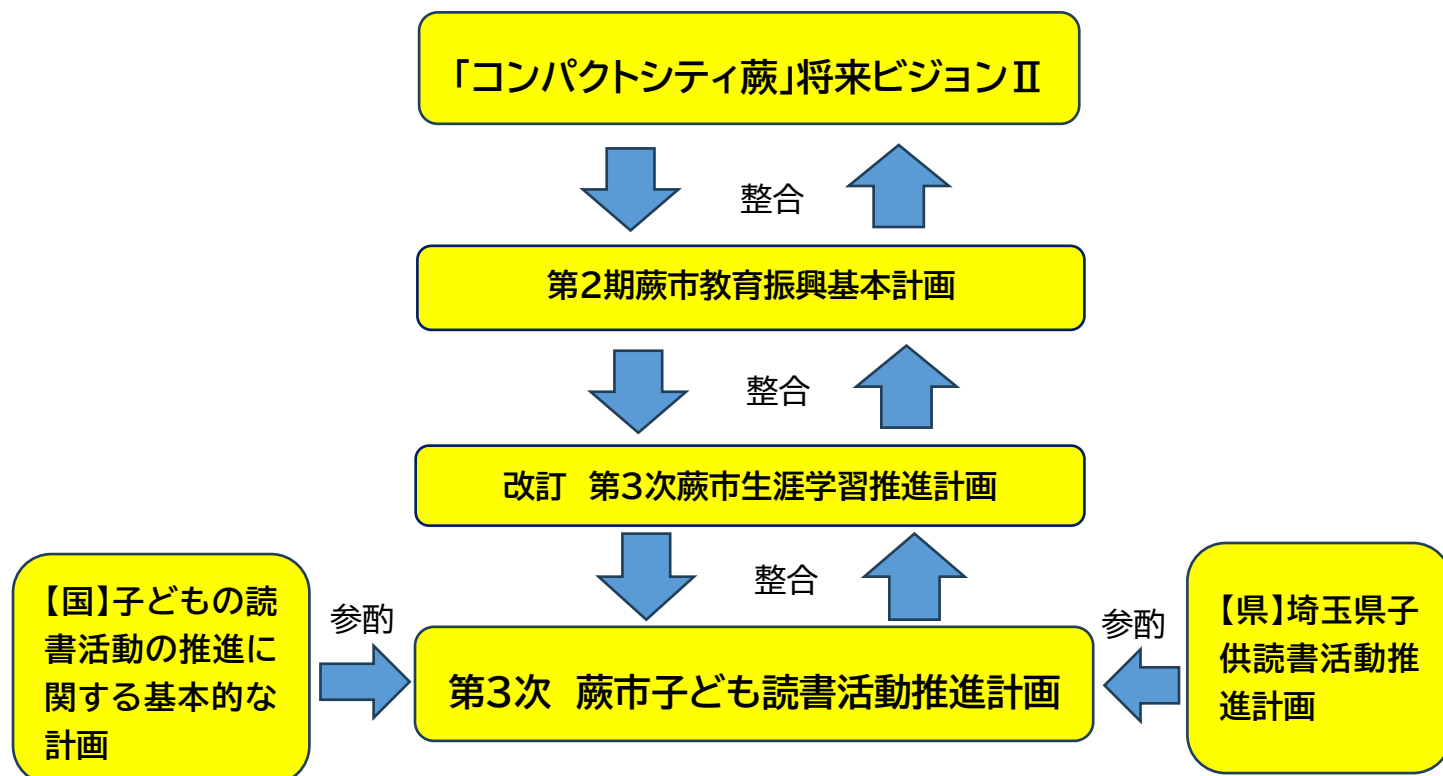
平成13年より施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」(以下「推進法」という。)は、子どもの読書活動に関する基本理念を定めており、国においては、推進法第8条第1項の規定に基づき、子どもの読書活動の推進に関する有識者会議による議論を経て、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定して以来5年毎に計画を策定してきており、令和5年に、「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、現在の社会情勢を踏まえた子どもの読書活動の推進に関する基本方針と具体的方策を明らかにしています。県においても、国の計画を受け、5年に一度、計画の見直しを図って、県内における子どもの読書環境の整備を推進しています。

本市においては、平成24年6月に「蕨市子ども読書活動推進計画」を、令和元年6月に「第2次蕨市子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭・地域・学校・行政が連携して子どもの読書活動の推進を図ってきました。

この度、令和6年度から令和10年度までの5年間の基本方針を明らかにするため、「第3次蕨市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

第1章 計画策定の趣旨

1. 計画の位置づけ



2. 計画の目的

本市においては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月）に基づき、平成24年6月に「蕨市子ども読書活動推進計画」を、令和元年6月に「第2次蕨市子ども読書活動推進計画」を策定し実行して参りました。

「第3次蕨市子ども読書活動推進計画」では、家庭・地域・学校等が連携協力し、社会全体で取り組み、子どもの読書活動の推進をより一層図っていくものです。

3. 計画の基本方針

(1)不読率の低減

すべての子どもたちが本に接することができるように、前計画を踏襲しつつ、就学前からの読み聞かせ等、子どもが読書に親しむ機会の充実を図り、主体的に読書に興味・関心を持つような取り組みを推進し、不読率の低減を目指します。

(2)多様な子どもたちが本に触れあえる機会を確保

障害のある子ども、日本語指導を必要とする子ども等、多様な子どもたちの個性を尊重し、全ての子どもたちが本に触れあえる機会を確保するための取り組みを行います。

(3)デジタル社会に対応した読書環境の整備

社会のデジタル化に対応し、言語能力や情報活用能力を育むとともに、距離の制約を受けずに図書へのアクセスを可能とするために、図書館のDX化を進めていきます。

(4)子どもの視点に立った読書活動の推進

子どもが主体的に読書活動を行えるよう、子どもの要望を把握する機会を確保し、取り組みに反映させていきます。

4. 計画の期間と対象

本計画の期間は令和6年6月から令和11年5月までの5年間とし、必要に応じて見直しを行います。本計画における「子ども」とは、前計画に引き続き、おおむね15歳以下の者をいいます。

5. 計画の目標値

本計画の目標達成具合を測るために、下記目標値を設定します。

【家庭・地域における子ども読書活動の推進】

指標	令和4年度 ＜現状値＞	令和10年度 ＜目標値＞
図書館ボランティア登録者数	67人	80人

【学校等における子ども読書活動の推進】

指標	令和4年度 ＜現状値＞	令和10年度 ＜目標値＞
児童・生徒一人当たりの年間貸出冊数 (学校図書館)	13.39冊	16冊
1ヶ月に1冊も本を読まない子どもの割合	4.9%	3%

【図書館における子どもの読書活動の推進】

指標	令和4年度 ＜現状値＞	令和10年度 ＜目標値＞
児童書年間貸出冊数	150,707冊	160,000冊
年齢に応じた推奨図書リストの作成の割合	100%	100%

第2章 本市における子ども読書活動の現状と課題

1. 小学生・中学生の読書状況に関するアンケートの調査結果

(1)調査概要

①調査目的

本計画の策定にあたり、子どもたちの読書状況を把握するためアンケート調査を実施しました。

②調査内容

問1 本を読むことは好きですか。

問1－①好きな理由を教えてください。

問1－②きらいな理由を教えてください。

問2 1か月に何冊ぐらい本を読みますか。

問3 どこで本を読むことが多いですか。

問4 読む本は、どのように選んでいますか。

問5 電子書籍を利用しますか。

問5－①利用する理由を教えてください。

問5－②利用しない理由を教えてください。

問6 蕨市の図書館(分館含む)を利用したことがありますか。

問6－①利用したことがないのはなぜですか。

問7 蕨市の図書館でどんなイベントがあったら参加してみたいですか。

問8 どんな本を読みたいですか。

③調査時期

令和5年9月1日から10月9日まで

④調査対象

小学校3年・5年、中学校2年の全数調査

対象者数 小学3年 555人 5年 522人 中学2年 473人

計1,550人

⑤調査方法

Googleフォームアンケートを使用して実施

⑥回収数

小学3年 475件、 5年 467件、 中学2年 375件

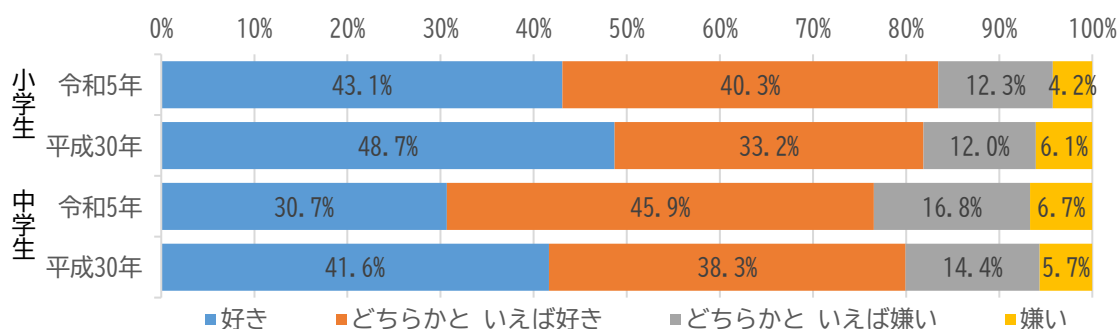
計1,317件(回収率85%)

※回答状況の集計は、小数点第2位を四捨五入しています。

(2)調査結果

【問1】本を読むことは好きですか。一番近いものを1つ選んでください。

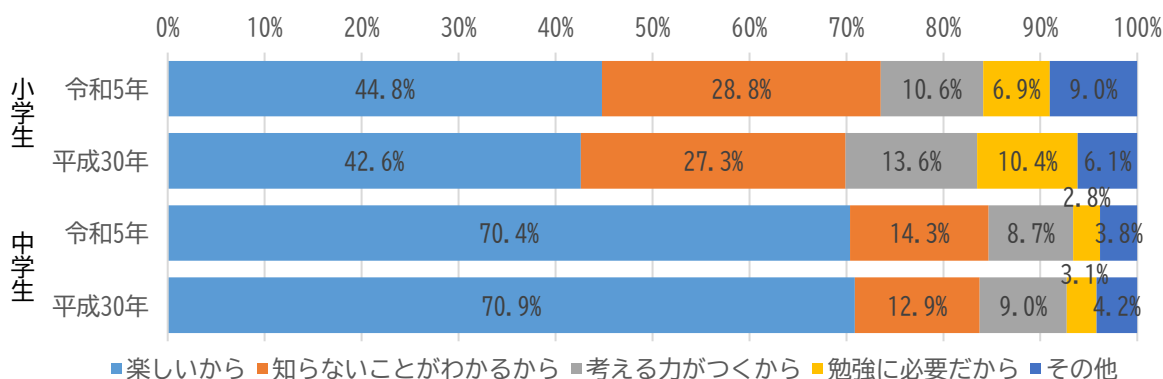
		好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
小学生	令和5年	406	380	116	40
	平成30年	481	328	119	60
中学生	令和5年	115	172	63	25
	平成30年	162	149	56	22



「好き」「どちらかといえば好き」を合わせると、小学生では 83.4%、中学生では 76.6% でした。前回調査（平成 30 年）と比較すると、「好き」「どちらかといえば好き」の割合は小学生では増加（1.5 ポイント）し、中学生では減少（3.3 ポイント）となっています。

【問1－①】好きな理由を教えてください。一番近いものを1つ選んでください。

		楽しいから	知らないことがわかるから	考える力がつくから	勉強に必要なだから	その他
小学生	令和5年	352	226	83	54	71
	平成30年	493	316	157	120	71
中学生	令和5年	202	41	25	8	11
	平成30年	253	46	32	11	15

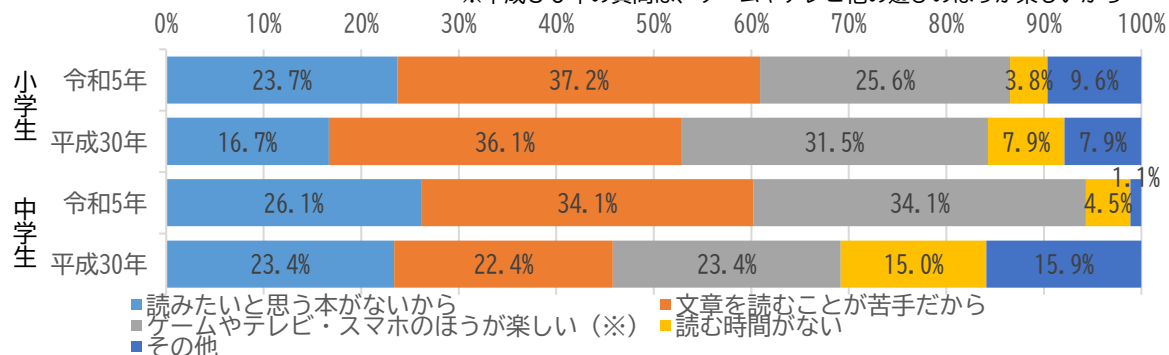


小・中学生ともに「楽しいから」が最も多く、次に「知らないことがわかるから」が2位となっています。前回調査（平成 30 年）と比較すると、小学生の「楽しいから」の割合が増加（2.2 ポイント）していますが、中学生は減少（0.5 ポイント）となっています。

【問1－②】きらいな理由を教えてください。一番近いものを1つ選んでください。

		読みたいと思う 本がないから	文章を読むこと が苦手だから	ゲームやテレビ・スマ ホのほうが楽しい※	読む時間がない	その他
小学生	令和5年	37	58	40	6	15
	平成30年	36	78	68	17	17
中学生	令和5年	23	30	30	4	1
	平成30年	25	24	25	16	17

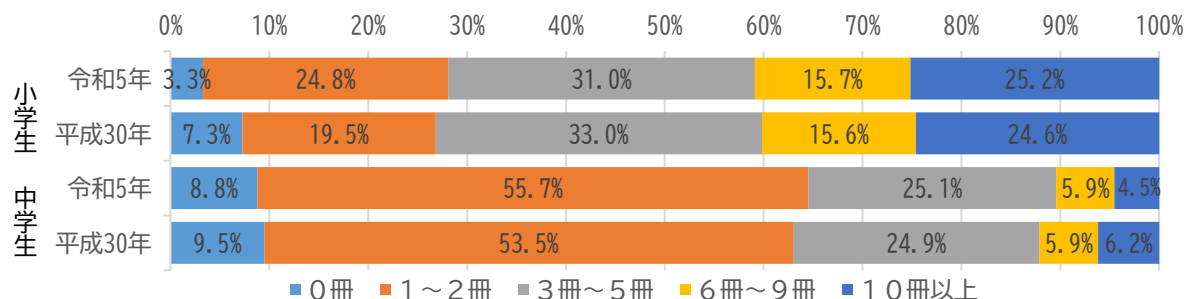
※平成30年の質問は、ゲームやテレビ他の遊びのほうが楽しいから



小学生では「文章を読むことが苦手だから」が37.2%で最も多く、次に「ゲームやテレビ・スマホのほうが楽しい」が25.6%でした。中学生では「文章を読むことが苦手だから」と「ゲームやテレビ・スマホのほうが楽しい」が34.1%の同率で最も多く、次に「読みたいと思う本がないから」が26.1%となっています。前回調査（平成30年）と比較すると、小学生は「読みたいと思う本がないから」が増加（7ポイント）、「文章を読むことが苦手だから」が増加（1.1ポイント）となっています。中学生は、「文章を読むことが苦手だから」が増加（11.7ポイント）と「ゲームやテレビ・スマホのほうが楽しい」が増加（10.7ポイント）となっています。

【問2】1ヶ月に何冊ぐらいの本を読みますか。

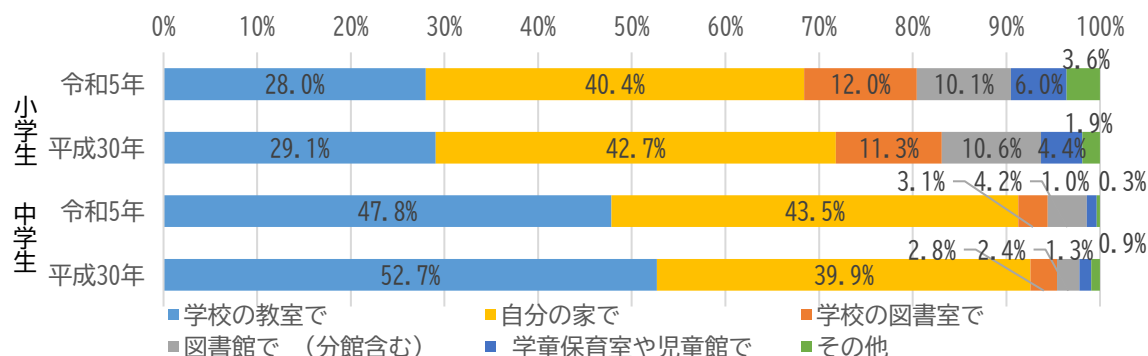
		0冊	1～2冊	3～5冊	6～9冊	10冊以上
小学生	令和5年	31	234	292	148	237
	平成30年	72	193	326	154	243
中学生	令和5年	33	209	94	22	17
	平成30年	37	208	97	23	24



「10冊以上」読むと回答した割合は、小学生では25.2%、中学生では4.5%、「0冊」と回答した割合は、小学生では3.3%、中学生では8.8%となっています。中学生と小学生では1冊の文字数にも違いがあるため冊数に違いが出ていると推測されます。前回調査（平成30年）と比較すると、10冊以上読む割合は小学生では微増（0.6ポイント）し、中学生では減少（1.7ポイント）となり、「0冊」と回答した割合は、小学生では減少（4ポイント）、中学生でも減少（0.7ポイント）となっています。

【問3】 どこで読むことが多いですか。あてはまるものを2つえらんでください。

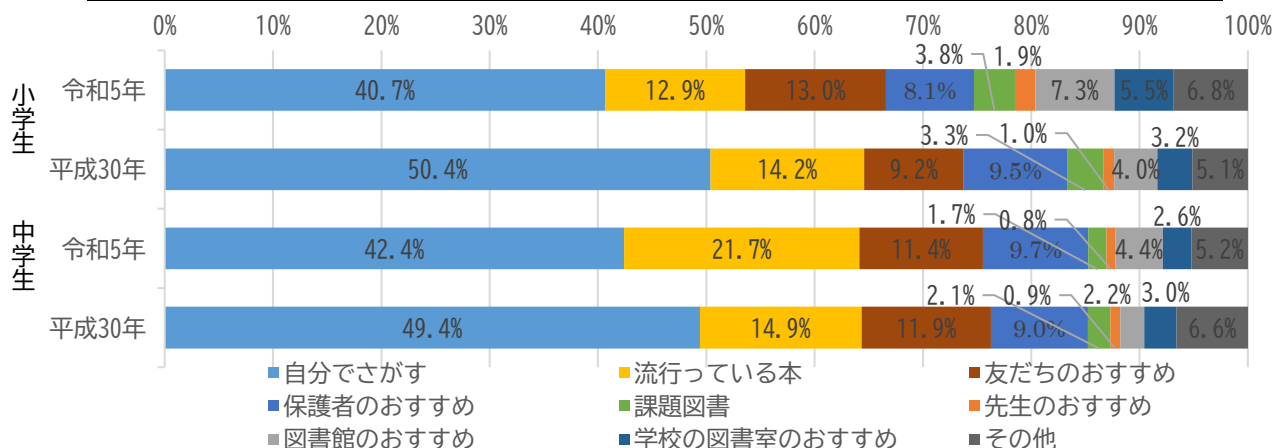
		学校の 教室で	自分の家で	学校の 図書室で	図書館で (分館含む)	学童保育室 や児童館で	その他
小学生	令和5年	465	671	200	167	99	59
	平成30年	480	706	187	175	73	31
中学生	令和5年	274	249	18	24	6	2
	平成30年	334	253	18	15	8	6



小学生では、「自分の家で」40.4%が最も多く、次が「学校の教室で」28.0%、中学生は、「学校の教室で」47.8%が最も多く、次に「自分の家で」43.5%となっています。前回調査（平成30年）と比較すると、小学生は「自分の家で」の割合が減少（2.3ポイント）、「学校の教室で」の割合が減少（1.1ポイント）し、「学童保育室や児童館で」の割合が増加（1.6ポイント）、中学生は「学校の教室で」の割合が減少（4.9ポイント）、「自分の家で」の割合が増加（3.6ポイント）となっています。

【問4】 読む本は、どのように選んでいますか。あてはまるものをすべてえらんでください。

		自分で さがす	流行っ ている本	友だちの おすすめ	保護者の おすすめ	課題図書	先生のお すすめ	図書館の おすすめ	学校の図書 室のおすす め	その他
小学生	令和5年	891	283	285	178	83	41	160	120	150
	平成30年	845	238	154	160	56	17	67	54	86
中学生	令和5年	357	183	96	82	14	7	37	22	44
	平成30年	331	100	80	60	14	6	15	20	44

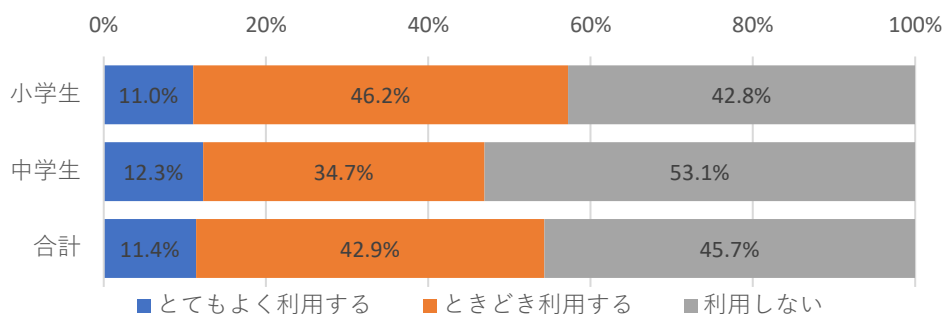


小・中学生ともに「自分でさがす」が4割を超えており、小学生は、「友だちのおすすめ」次に「流行っている本」、中学生では「流行っている本」が21.7%となっています。前回調査（平成30年）と比較すると、「自分でさがす」が小学生は減少（9.7ポイント）、中学生は減少（7ポイント）となっています。「友だちのおすすめ」が小学生で増加（3.8ポイント）、中学生は「流行っている本」が増加（6.8ポイント）となっています。

【問5】電子書籍※を利用しますか。

※パソコンやタブレット端末、スマートフォンを使う読書

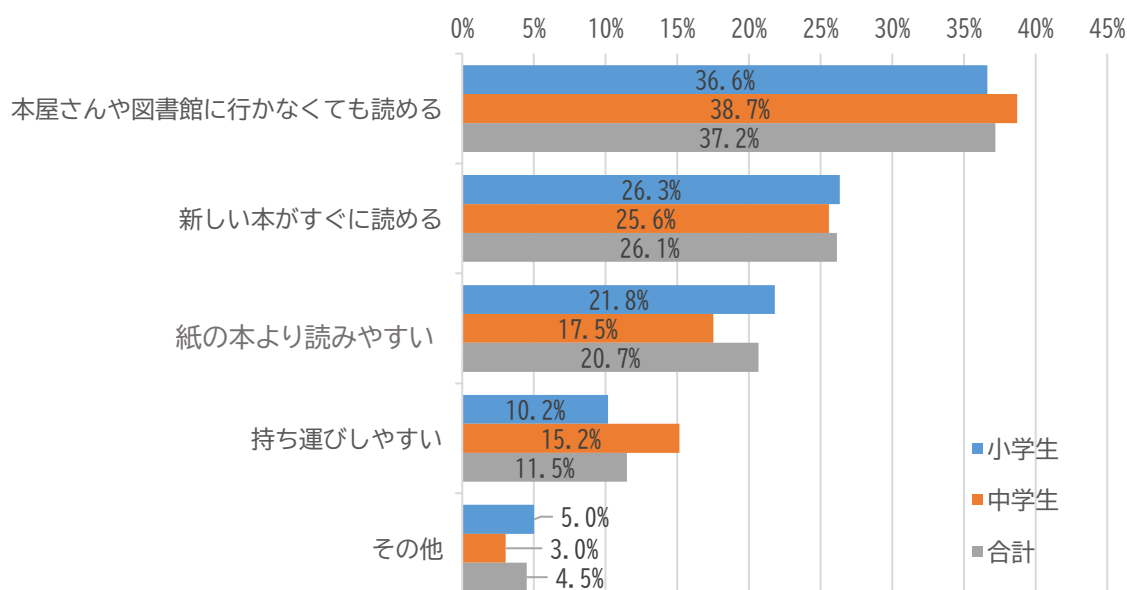
	とてもよく利用する	ときどき利用する	利用しない
小学生	104	435	403
中学生	46	130	199
合計	150	565	602



今回追加された調査項目です。わらび電子図書館が令和4年8月から開始され、これに伴い、市内の小中学校に通う全児童・生徒に「わらび電子図書館学校用ID」を令和4年11月から配布しました。1年未満で半数前後の利用となり、小学生では57.2%、中学生では、47.0%となっています。小学生・中学生の割合を合計すると54.3%となっています。

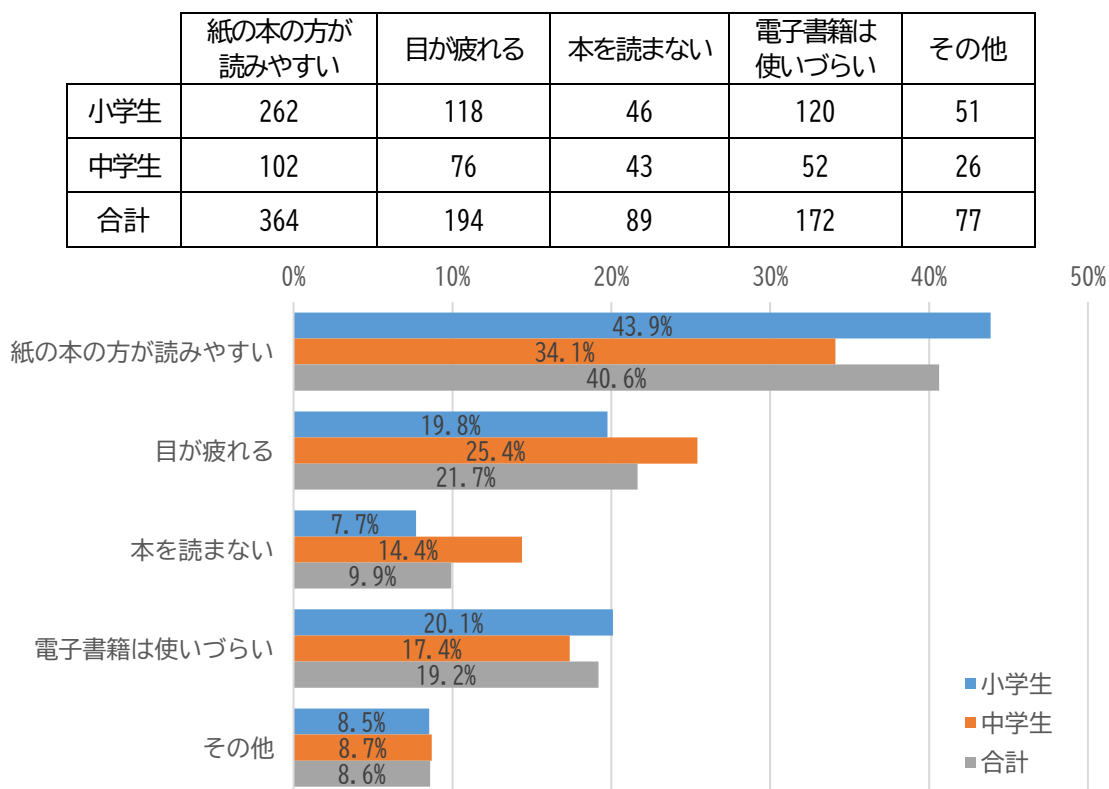
【問5-①】利用する理由を教えてください。あてはまるものをすべてえらんでください。

	本屋さんや図書館に行かなくても読める	新しい本がすぐに読める	紙の本より読みやすい	持ち運びしやすい	その他
小学生	299	215	178	83	41
中学生	115	76	52	45	9
合計	414	291	230	128	50



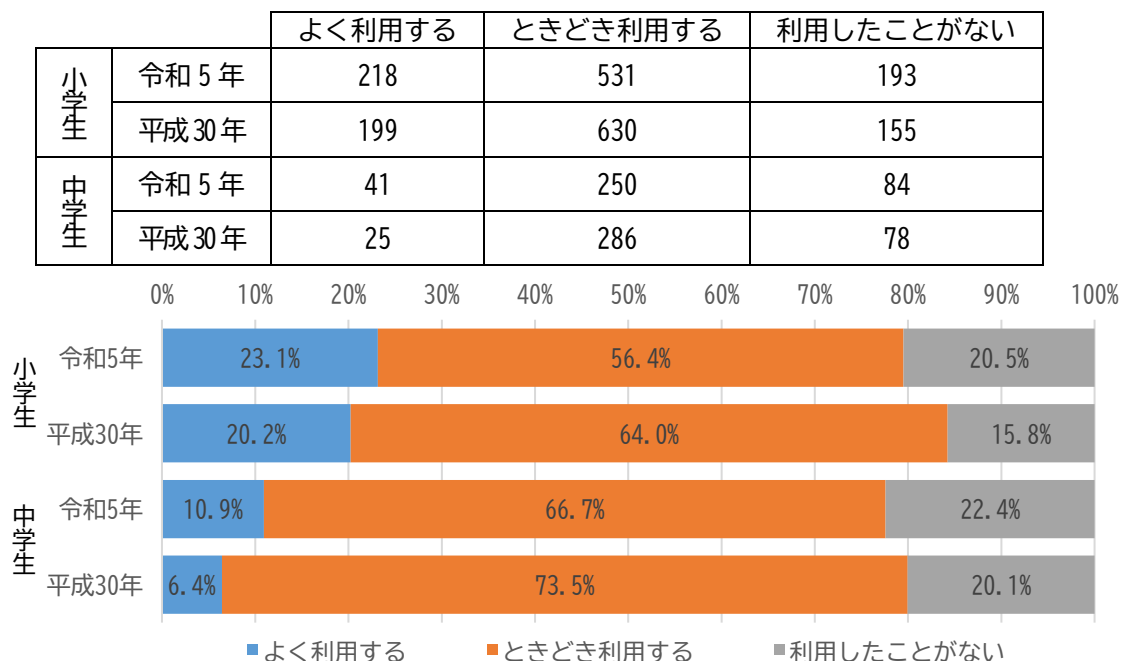
今回追加された調査項目です。小学生・中学生とも、「本屋さんや図書館に行かなくても読める」が最も多く小学生が36.6%、中学生が38.7%、次に「新しい本がすぐに読める」で小学生26.3%、中学生25.6%となっています。

【問5-②】利用しない理由を教えてください。あてはまるものすべてえらんでください。



今回追加された調査項目です。小学生・中学生とも「紙の本の方が読みやすい」が最も多く、小学生43.9%、中学生34.1%、次に小学生は「電子書籍は使いづらい」が20.1%、中学生は「目が疲れる」25.4%となっています。

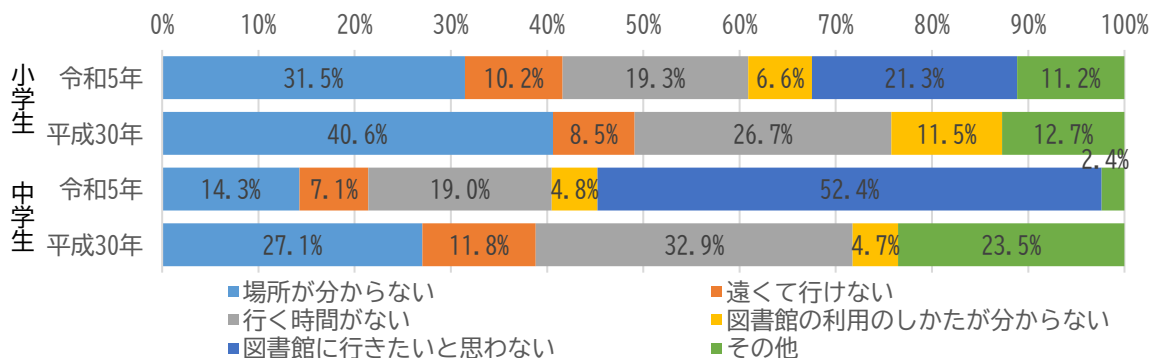
【問6】蕨市の図書館(分館を含む)を利用したことがありますか。



「よく利用する」「ときどき利用する」の割合を合わせると、小学生では79.5%、中学生では、77.6%となっています。図書館を利用する割合が、前回調査(平成30年)と比較すると、小学生は減少(4.7ポイント)、中学生も減少(2.3ポイント)となっています。

【問6－①】利用したことがないのはなぜですか。いくつでもえらんでください。

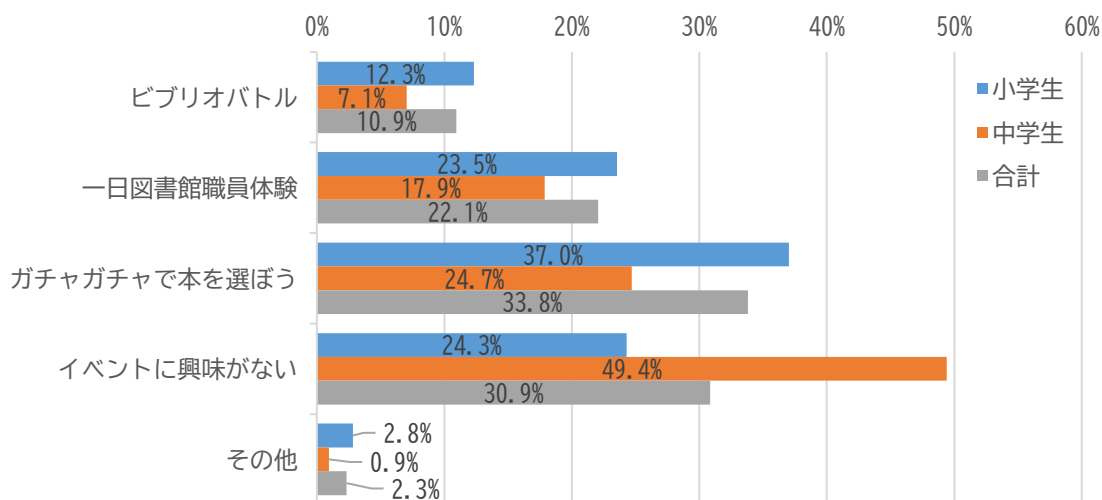
		場所が分からない	遠くて行けない	行く時間がない	図書館の利用のしかたが分からない	図書館に行きたいと思わない	その他
小学生	令和5年	62	20	38	13	42	22
	平成30年	67	14	44	19		21
中学生	令和5年	12	6	16	4	44	2
	平成30年	23	10	28	4		20



小学生では「場所が分からない」が31.5%で最も多く、中学生では「図書館に行きたいと思わない」が52.4%で最も多くなっています。前回調査(平成30年)と比較すると、小学生は「場所が分からない」は減少(9.1ポイント)、「行く時間がない」は減(7.4ポイント)、中学生は「場所が分からない」は減少(12.8ポイント)、「行く時間がない」は減少(13.9ポイント)、となっています。今回新たに選択肢に加えた「図書館に行きたいと思わない」は、小学生21.3%、中学生は52.4%となっています。

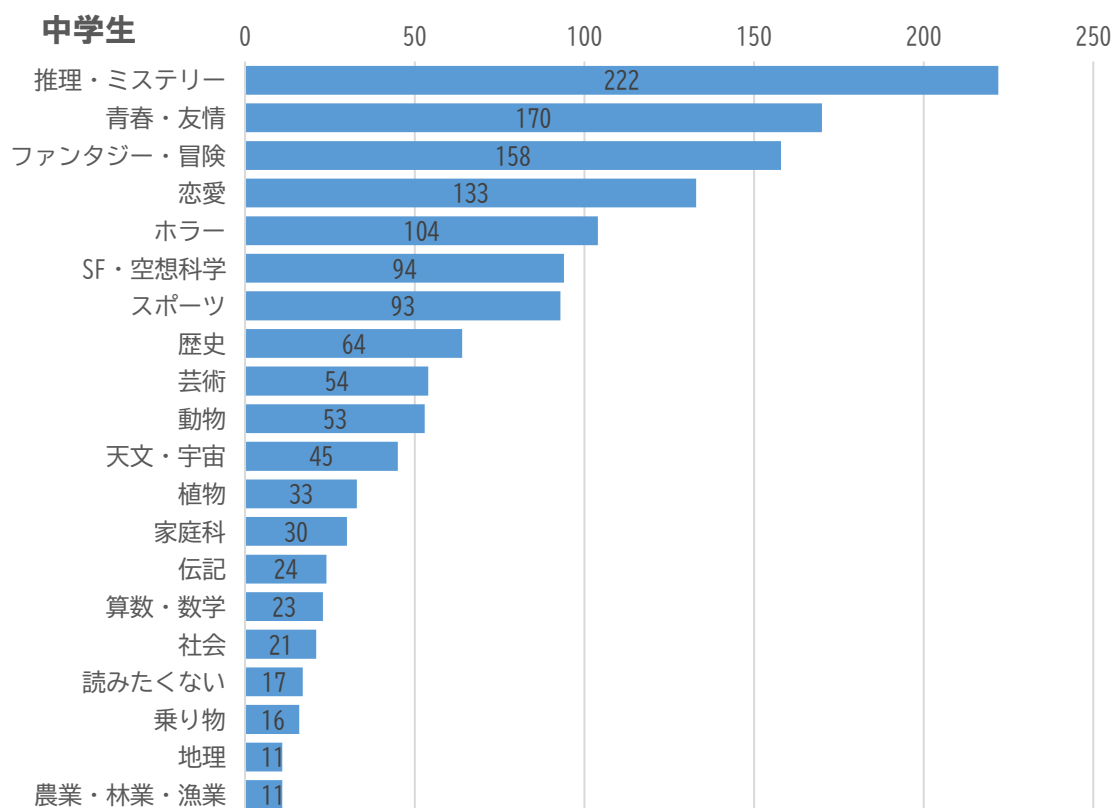
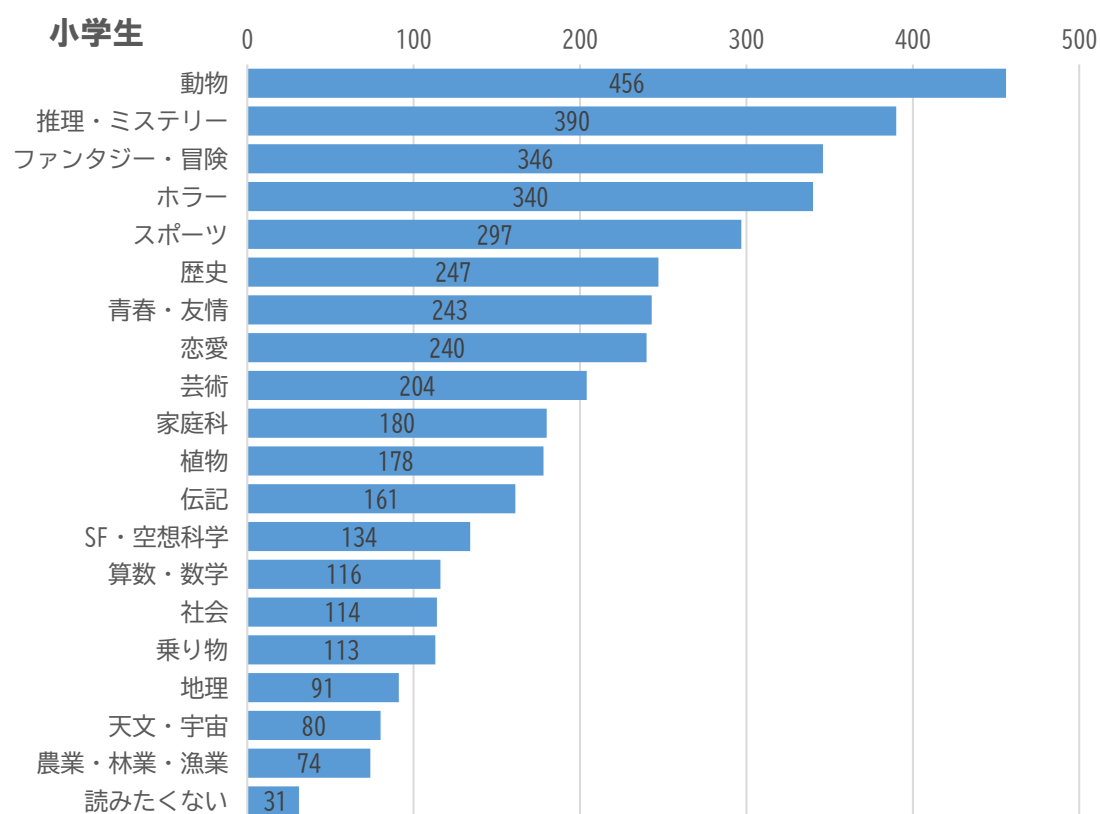
【問7】蔵市の図書館でどんなイベントがあったら参加してみたいですか。いくつでも選んでください。

	ビブリオバトル	一日図書館職員体験	ガチャガチャで本を選ぼう	イベントに興味がない	その他
小学生	148	283	445	292	34
中学生	30	76	105	210	4
合計	178	359	550	502	38



今回追加された調査項目です。「一日図書館職員体験」は小学生23.5%、中学生17.9%、「ガチャガチャで本を選ぼう」は小学生37.0%、中学生24.7%となっています。「イベントに興味がない」が小学生24.3%、中学生49.4%となっています。

【問8】どんな本を読みたいですか。いくつでも、えらんでください。



小学生では、「動物」が最も多く、「推理・ミステリー」・「ファンタジー・冒険」・「ホラー」の物語が読みたい本となっています。

中学生では、「推理・ミステリー」が最も多く、「青春・友情」・「ファンタジー・冒険」・「恋愛」と続いており、物語が読みたい本となっています。

2. お子さんの読書環境についてのアンケート(保護者向)の調査結果

(1)調査概要

① 調査目的

本計画の策定にあたり、乳幼児期における子どもたちの読書状況を把握するため、今回初めてアンケート調査を実施しました。

②調査内容

- 問1 本の読み聞かせをしていますか。
- 問2 設問1で読み聞かせをしていると回答した方は、理由を教えてください。
- 問3 設問1で読み聞かせをしていないと回答した方は、理由を教えてください。
- 問4 1か月に何冊もしくは何回ぐらい読み聞かせをしていますか。
- 問5 読み聞かせをする本は、どのように選んでいますか。
- 問6 設問5でその他を選択した方は、ご記入ください。
- 問7 読み聞かせをするとき、電子書籍を利用していますか。
- 問8 設問7で利用すると回答した方は、理由を教えてください。
- 問9 設問7で利用しないと回答した方は、理由を教えてください。
- 問10 藤市の図書館(分館を含む)を利用したことがありますか。
- 問11 設問10で利用したことがないと回答した方は、なぜですか。
- 問12 藤市の図書館でどんなイベントがあったら参加してみたいですか。

③調査時期

令和5年9月15日から29日まで

④調査対象

市内公立保育園保護者 498名

⑤調査方法

保育園で利用しているコドモン保護者アプリでアンケート調査を実施

⑥回収数

331名回収(回収率66.5%)

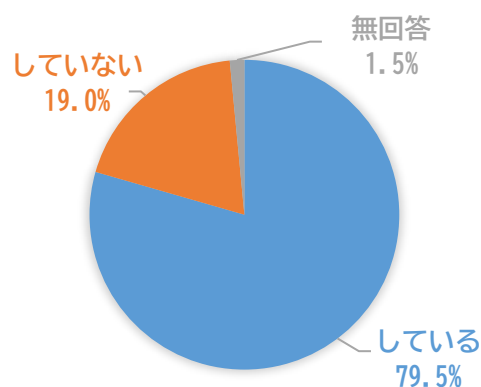
⑦アンケートにおける留意点

コドモンのアンケートに設問を飛ばす機能がないため、問2もしくは問3のみ回答するところ等、どちらかのみ回答するところ、どちらにも回答しているケースが散見されますが、その場合はどちらの回答も集計しています。また、回答が必要な設問に無回答となっている場合もあり、回答数にばらつきもみられますが、回答があったものすべてをカウントしています。

(2)調査結果

【問1】本の読み聞かせをしていますか。

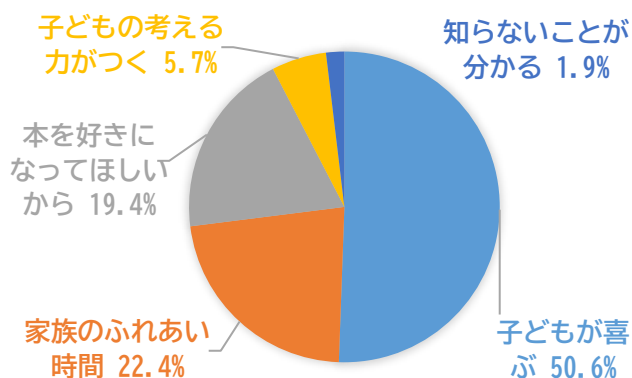
している	263
していない	63
無回答	5
計	331



約8割のご家庭が本の読み聞かせをしています。

【問2】設問1で読み聞かせをしていると回答した方は、理由を教えてください。

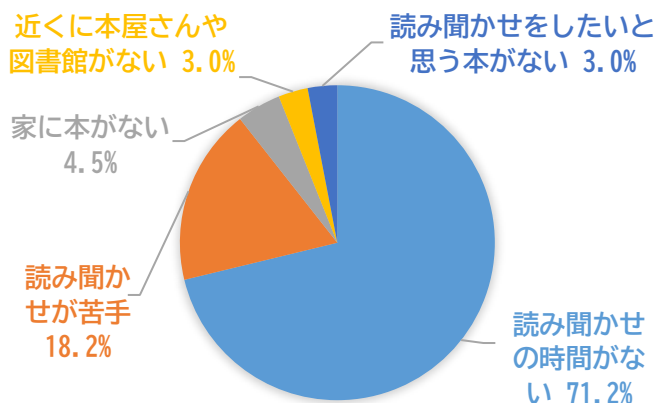
子どもが喜ぶ	133
家族のふれあい時間	59
本を好きになってほしいから	51
子どもの考える力がつく	15
知らないことが分かる	5
計	263



「子どもが喜ぶ」という理由が50%を超えていて最も多く、次に「家族のふれあい時間」22.4%、「本を好きになってほしいから」19.4%となっています。

【問3】設問1で読み聞かせをしていないと回答した方は、理由を教えてください。

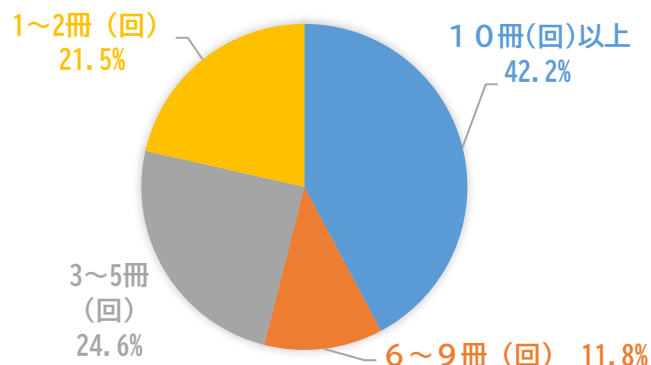
読み聞かせの時間がない	47
読み聞かせが苦手	12
家に本がない	3
近くに本屋さんや図書館がない	2
読み聞かせをしたいと思う本がない	2
計	66



読み聞かせをしていない理由で最も多いのが「読み聞かせの時間がない」71.2%、次が「読み聞かせが苦手」18.2%となっています。

【問4】月に何冊もしくは何回ぐらい読み聞かせをしていますか。

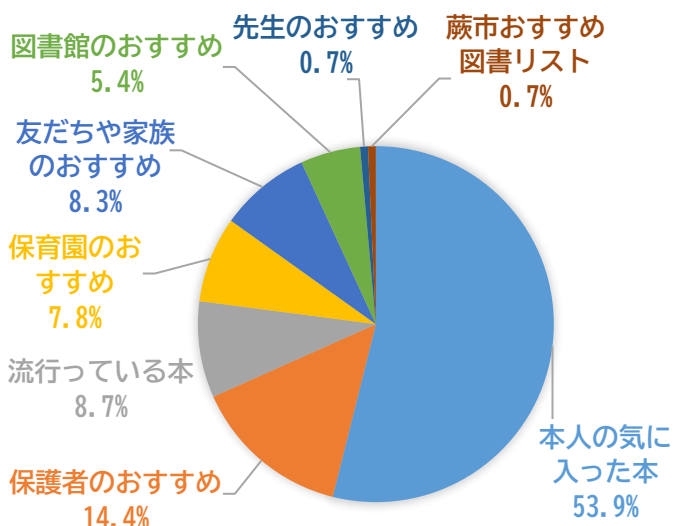
10冊（回）以上	122
6～9冊（回）	34
3～5冊（回）	71
1～2冊（回）	62
計	289



「10冊（回）以上」読み聞かせをする割合は42.2%と最も多く、次いで「3～5冊（回）以上」24.6%、「1～2冊（回）以上」21.5%、「6～9冊（回）以上」11.8%となっています。

【問5】読み聞かせをする本は、どのように選んでいますか。（複数回答可）

本人の気に入った本	228
保護者のおすすめ	61
流行っている本	37
保育園のおすすめ	33
友だちや家族のおすすめ	35
図書館のおすすめ	23
先生のおすすめ	3
蕨市おすすめ図書リスト	3
計	423



「本人の気に入った本」が53.9%と最も多く、「保護者のおすすめ」14.4%、「流行っている本」8.7%、「保育園のおすすめ」7.8%等、本人や家族が選んでいる傾向があります。

【問6】設問5でその他を選択した方は、ご記入ください。

- ・ 仕事で読んでいて楽しそうな絵本を読んだり、本人が選んだほうが興味を持つてみる事ができるから
- ・ 保育士をしているので、自分が読んで面白かったものを読んでいる
- ・ その時の子供の状態によって
- ・ 家にあるもの
- ・ 図書館でランダムに選ぶ
- ・ 出版社？から出ているオススメの小冊子や、絵本の定期購読のチラシに載っている本
- ・ 子どもに読んであげたい本
- ・ 他にない
- ・ 興味のあるような物語
- ・ 保育園で借りた絵本、自分で選んだ絵本、姉が選んだ本
- ・ こどもチャレンジ
- ・ 保育園の本棚にある本

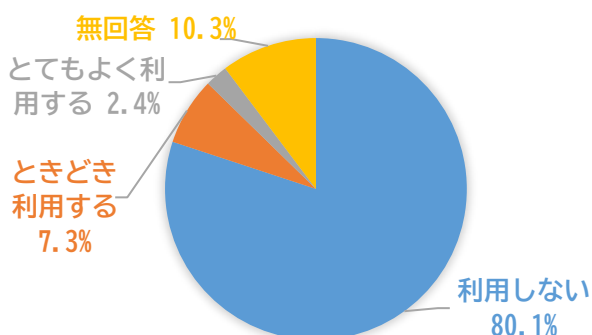
- ・子どもが気に入った本、子どもが読みたい本
- ・お下がりの貰い物
- ・子供が今興味がある題材や学びに繋がる物を自分で選んで読みます
- ・Instagram やネットで「よい」と話題になっている本
- ・定期便で年齢に合った本を送ってもらっている
- ・昔からのベストセラー
- ・自分の子供の頃に読んでいた、家にある本
- ・寝かしつけに合いそうな本
- ・本人が好きそうなものや学んでほしいものなどを考慮して選んでいる
- ・本屋に行った時に気に入った絵柄
- ・保育園で貸し出ししてるもの
- ・子どもが気に入りそうな本を選んでいる
- ・ネット
- ・こどもチャレンジで月齢ごとに送られてくる絵本
- ・トツキトオカアプリで紹介されて良さそうだったもの
- ・頂いた本

その他の意見では、定期的に出版社から届く本や、家にある本などから選ばれている等の意見がみられました。

【問7】読み聞かせをするとき、電子書籍※を利用していますか

※パソコンやタブレット端末、スマートフォンを使う読書

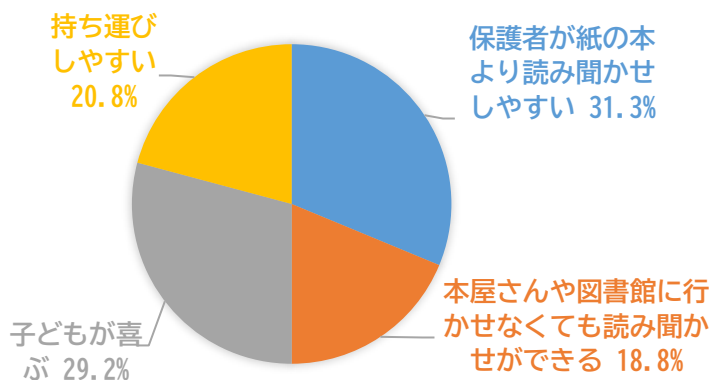
利用しない	265
ときどき利用する	24
とてもよく利用する	8
無回答	34
計	331



電子書籍を利用しない人が 80.1%で、読み聞かせに電子書籍が利用されていないことが分かります。

【問8】設問7で利用すると回答した方は、理由を教えてください。(複数回答可)

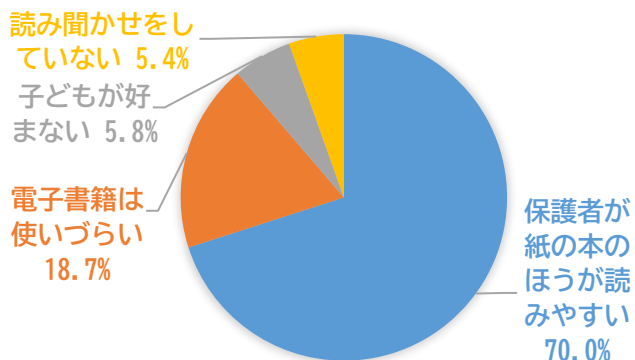
保護者が紙の本より読み聞かせがしやすい	15
本屋さんや図書館に行かなくても読み聞かせができる	9
子どもが喜ぶ	14
持ち運びしやすい	10
計	48



「保護者が紙の本より読み聞かせしやすい」31.3%、「子どもが喜ぶ」29.2%、「持ち運びしやすい」20.8%と電子書籍が利用しやすい保護者も見受けられます。

【問9】設問7で利用しないと回答した方は、理由を教えてください。

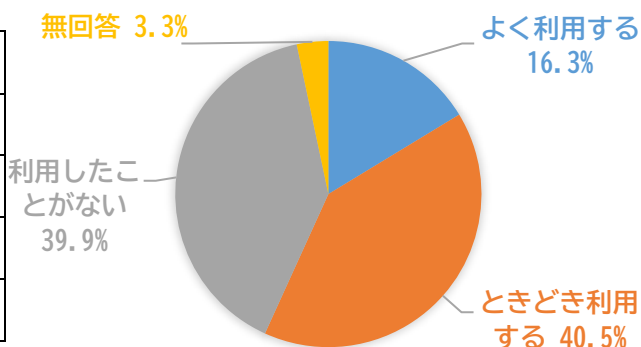
保護者が紙の本のほうが読みやすい	180
電子書籍は使いづらい	48
子どもが好まない	15
読み聞かせをしていない	14
計	257



最も多い理由は、「保護者が紙の本のほうが読みやすい」70%でした。

【問10】蕨市の図書館(分館を含む)を利用したことがありますか。

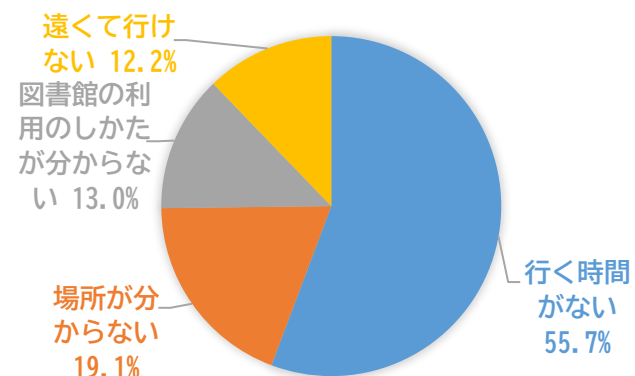
よく利用する	54
ときどき利用する	134
利用したことがない	132
無回答	11
計	331



「図書館をよく利用する」16.3%、「ときどき利用する」40.5%で 56.8%と、約半数の人が図書館を利用していることがわかります。

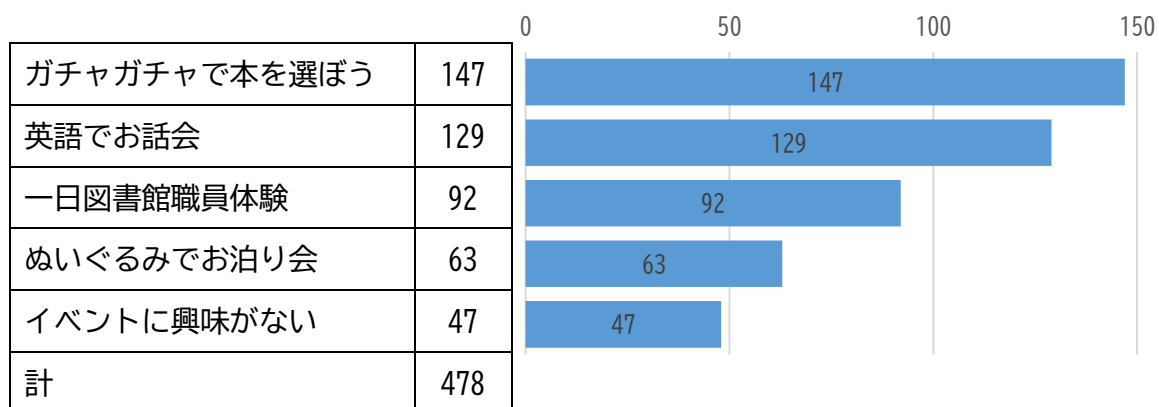
【問11】設問10で利用したことがないと回答した方は、なぜですか。

行く時間がない	73
場所が分からない	25
図書館の利用のしかたが分からない	17
遠くて行けない	16
計	131



図書館を利用したことがない理由としては、「行く時間がない」55.7%と最も多く、「場所が分からない」19.1%、「図書館の利用のしかたが分からない」13.0%となっています。

【問12】蕨市の図書館でどんなイベントがあったら参加してみたいですか。(複数回答可)



「ガチャガチャで本を選ぼう」147件、「英語でお話会」129件、「一日図書館職員体験」92件、「ぬいぐるみでお泊り会」63件となっています。

3. 前計画の取組と調査結果からみる課題

前計画では、「家庭・地域、学校等において、子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実」、「子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進」、「子どもが読書に親しむための推進体制の整備」の3つの項目を基本方針に定め、家庭・地域、保育園・幼稚園、小学校・中学校、福祉・児童センター、公民館、図書館において、読書活動を推進する取組を行ってまいりました。

(1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進

【取組】

家庭・地域における取り組みとして、保健センターでは、4か月児健診時に「ブックスタート」を実施し、読書活動のファーストステップとして定着しています。絵本の贈呈をするとともに読み聞かせの手引きとなるリーフレットと図書館の利用案内を同封し、利用者の増加を図っています。福祉・児童センターでは、偶数月に図書館の団体貸出を利用して、子どもたちや保護者の読書環境を整備しています。また、子どもの読書活動に係わる団体・グループについては、図書館における読み聞かせや催し等に、必要な資機材の貸し出し及び選書、会議場所の提供等を行っています。

【課題】

保育園の保護者向けアンケート調査からみると、約8割のご家庭で読み聞かせが実施されています。読み聞かせをしていないご家庭のうち約7割のご家庭が「読み聞かせの時間がない」と回答されています。保育園の保護者向けアンケートであるため、忙しい日々を送っていることが推測されます。

保護者が読み聞かせや読書の大切さに気づき、子どもの読書活動の習慣化に積極的な役割を果たしていくことができるよう、読書活動の推進を行っていきます。また、ボランティア団体や関係機関と図書館の連携を強化するとともに、児童館、福祉・児童センター、公民館、地域子育て支援センターでの読み聞かせを通して、家庭での読書活動の推進に繋がるよう努めていく必要があります。

(2) 保育園・幼稚園における子ども読書活動の推進

【取組】

保育園・幼稚園における取り組みとして、各園で保育士や幼稚園教諭、ボランティアによる読み聞かせが行われています。その他、子どもたちが本に親しむ環境づくりや、読み聞かせや読書の大切さを伝える保護者への働きかけなどを行っています。また、家庭での読み聞かせを推進するため、各公立保育園と図書館で連携して作成した「蕨市おすすめ図書リスト」の配布を行っています。

【課題】

各公立保育園と図書館で連携して作成した「蕨市おすすめ図書リスト」は、子どもたちに読んでほしい本を中心に選書されています。公立保育園の保護者向けアンケートにおいて、「読み聞かせをする本をどのように選んでいますか」で「蕨市おすすめ図書リスト」がとても少ないため、保育園・幼稚園における読書活動の推進のためにも、「蕨市おすすめ図書リスト」がより一層活用されることが課題となります。

(3)学校等における子ども読書活動の推進

【取組】

小学校における取り組みとして、児童に読書を習慣づけるため、全校での一斉読書やボランティアによる読み聞かせ、各学校独自の用紙で読書記録をつける取り組みが実施されており、読書活動を支援する環境は整ってきています。

また、図書館と各学校の司書教諭及び学校図書館教育支援員が連携し、図書館を中心に市で統一した「蕨市おすすめ図書リスト」を作成しています。

【課題】

小中学校ともに、前回調査と比較して多少増減はあるものの、約8割の児童・生徒が「本を読むことが好き」と回答しています。また、1か月に本を読む冊数についても、0冊と回答している児童・生徒の数は減少しています。これは、令和4年11月から「わらび電子図書館」の学校用IDを学校と連携して全校児童・生徒に配布し、学校での朝読書の時間等で活用されたことが考えられ、今後も不読率の改善が図られるよう、学校と図書館の連携を深め、読書活動を推進していきます。

(4)図書館における子ども読書活動の推進

【取組】

図書館における具体的な取り組みとして、発達段階に応じた児童書の充実をはじめ、各子ども向けイベントやお話会、図書館ボランティアの支援等を実施しています。また、図書館のリサイクル図書を一般の利用者に提供する前に、市内学校や市内学童保育室等に提供することや、「わらび電子図書館」による電子書籍の提供を通して、子どもたちの読書環境の推進を図っています。

【課題】

幅広い年齢層の子どもに対して、切れ目なく適切な読書活動を支援していくためにも、図書館が中心的な役割を担い、学校や施設、ボランティア団体の状況を把握し、いっそう連携を深めるとともに、児童書の選定や相談に十分な対応ができるよう職員の資質の向上を目指します。

また、アンケート調査結果では小中学生の約2割が図書館を利用したことがなく、そのうち小学生の約3割、中学生の約1.5割が「場所が分からない」、また、小学生の約2割、中学生の約5割が「図書館に行きたいと思わない」と回答しています。このことから、アンケート調査での「蕨市の図書館で参加してみたいイベント」の結果などを参考に、行きたいと思われるような魅力的な図書館づくりが課題となっています。

第3章 読書活動を推進する具体的な取組

取組 1. ブックスタート

担当 保健センター・図書館

保健センターで実施する4か月児健診時に、ボランティアによる絵本の読み聞かせを行い、絵本を贈呈するとともに、読み聞かせの手引きとなるリーフレット、よみきかせ手帳、「蕨市おすすめ図書リスト」を配布するブックスタート事業を実施していきます。

取組 2. セカンドブック

担当 図書館・保健センター

ブックスタート事業のフォローアップ事業としてセカンドブック事業を開始します。ブックスタート時では4か月だった子どもたちも3歳になると語彙も行動範囲も広がっており、ブックスタートで配布した本よりもストーリー性のある絵本を配布することで、絵本の世界観が保護者から伝わり、絵本に親しみを覚え、家庭での読み聞かせが習慣化するよう支援していきます。

取組 3. 読書手帳等

担当 市立小・中学校・保健センター・図書館

読書が習慣化するよう支援するため読書を記録する手帳等の配布を行います。

保健センターで実施するブックスタートの時に絵本等と一緒によみきかせ手帳を贈呈します。

各小学校では、各学校で独自に記録用紙等を作成・配布し、児童自身で読書を記録させる取組を行っています。

図書館では、よみきかせ手帳を作成し、ブックスタート時や市立図書館等で配布することで、家庭での読み聞かせが習慣化するよう支援を行います。また、図書館のウェブサイトで利用できるMy本棚では、図書館で借りた本の履歴記録が可能となっており、読書記録にも利用できるため、活用の啓発を行っています。

取組 4. 蕨市おすすめ図書リスト

担当 保育園・市立小・中学校・図書館

図書館と保育園の保育士、市立小・中学校の司書教諭及び学校図書館教育支援員等が連携し、「蕨市おすすめ図書リスト」を作成し、乳幼児・児童生徒に配布します。併せて、図書館内に特設コーナーを設置することで、子どもたちの読書活動を支援していきます。また、アンケート調査結果から、図書リストの認知度が低いという課題があるため、広報・啓発を積極的に行い、普及に努めていきます。

取組 5. 保育園・幼稚園における読書活動

担当 保育園・幼稚園

子どもたちが日常的に過ごす保育園・幼稚園で読書活動を支援していく事業を行います。

①絵本等の読み聞かせ

日常生活の中で年齢ごとに読み聞かせを実施することで、子どもの感受性や、語彙力・集中力を養い、自ら絵本を楽しむきっかけづくりを支援します。

②身近に本のある環境の整備

子どもたちが安心して図書に触れることができるよう、発達段階に応じた選書を行い、読書環境を整備します。また、市立保育園に本の貸出コーナー等を設けるなどして、家庭で本に親しむ機会を支援していきます。

③親子で絵本に親しむ意義を啓発

家庭での読み聞かせを積極的に支援するため、市立保育園では、クラスだより等を通して子どもが絵本等を楽しむ様子を保護者に伝えます。また、一日保育士体験で、保護者が子どもたちに絵本や紙芝居の読み聞かせをするという体験により、読み聞かせの大切さを知る機会を設けます。

取組6. 小学校・中学校における読書活動

担当 市立小学校・中学校・図書館

コロナ禍以降、感染症対策を契機として、GIGA スクール構想の実現が一気に加速し、小中学生に学習者用端末が貸与され、学校教育現場におけるICTの活用が飛躍的な広がりを見せています。新しい生活様式に適應しながらも、本に親しむことを通じて、生涯にわたって自発的に学ぼうとする習慣が身に付けられ、読書習慣が確立されるよう支援し、デジタル社会やGIGAスクール構想に適應していくためにも、子どもたちに有用な電子書籍での読書環境を整備し、読書活動の充実に取り組む事業を行います。

①読書習慣定着のための活動

全校で一斉読書の実施、図書委員会の児童・生徒による本の貸出、学校ボランティア・教師による読み聞かせや、夏季休業期間中の自由課題として読書感想文コンクールへの参加を行います。また、各小学校で独自に読書記録用紙等を配布し、児童自身で読書を記録させる取組を行います。各学校でのこうした取組により、読書習慣が定着するための活動を推進していきます。

②ボランティア活動の推進

本の読み聞かせや学校図書館の資料整備など、必要に応じたボランティア活動を推進します。

③学校図書館資料の充実

子どもたちの読書活動を支援していくため、学校図書館資料を収集・整理・保存し、適切な蔵書管理を行います。司書教諭や学校図書館教育支援員・学校図書館ボランティアが連携し、学校図書館の読書環境の整備を行います。また、司書教諭と学校図書館教育支援員が連携を図りながら、学校図書館教育の支援を行います。

④デジタル社会に対応した読書環境の整備

GIGA スクール構想に基づき、市立小・中学校に通う全児童生徒に1人1台の学習者用端末を整備し、市立小・中学校に通信ネットワーク環境を整え、社会のデジタル化に対応できるように電子書籍の読書環境を整備していきます。

また、言語能力や情報活用能力を育んでいくとともに、多様な子どもたちの読書機会を確保し、距離の制約を受けずに図書へのアクセスが可能となるよう、子どもたちの健康や発達段階に配慮しつつ、電子書籍の利用等、より一層デジタル化を推進していきます。図書館はアクセス制限のない電子書籍の読み放題パックを積極的に購入し、児童・生徒の電子書籍の利用を支援していきます。

⑤図書館との連携

図書館と連携し、学校での電子書籍の円滑な利用のため、市立小・中学校に通う全児童・生徒に「わらび電子図書館」学校用IDを配布し、電子書籍が学校での授業や朝読書等で活用できるよう支援していきます。

希望のあったクラスや学年ごとに図書館から、定期的に団体貸出の利用や、テーマ貸出、児童書リサイクル図書の提供により、授業や学校における

読書環境の整備を支援していきます。

その他、小学生の図書館への施設見学や、中学生の職場体験授業を積極的に利用し、子どもたちの図書館への関心や知識を深め、読書意欲への興味の向上を目指します。

取組7. 乳児や幼児と保護者を対象とした読み聞かせ講座やお話会

担当 福祉・児童センター・児童館・地域子育て支援センター・公民館
・図書館

福祉・児童センター、児童館、地域子育て支援センター、公民館では、子どもたちに絵本の読み聞かせを実施します。特に、児童館では0. 1. 2. 3歳児の年齢別で参加者親子を対象に絵本の読み聞かせを実施し、親子の絆を深めるとともに、絵本の読み聞かせの楽しさを伝えていきます。

図書館では、ボランティアによる絵本や紙芝居等のお話会を通して、本への興味に結びつくよう支援していきます。また、本の世界をより身近に感じられるよう、夏や冬のおたのしみ会等での季節感を大切に、より本に親しみを感じてもらい、読書習慣につながるよう取組を行っています。

取組8. ボランティア活動の促進

担当 図書館

図書館では、集団に向けて読み聞かせを行う人を対象にボランティア講習会を開催することで、読み聞かせ等の勉強の場を確保し、技術の向上を図る機会を提供していきます。また、読み聞かせボランティアや学校図書館ボランティア、読み聞かせや子どもの本に関する自主サークル等、子どもの読書活動推進に関する担い手の活動を支援するため、大型絵本や紙芝居・資料の団体貸出や機材の貸出、会議場所等の提供を実施します。

取組9. 福祉・児童センターと図書館の連携

担当 福祉・児童センター・図書館

福祉・児童センターでは、図書館から偶数月に定期配送される図書の団体貸出と図書館のリサイクル図書を活用することで、子どもたちと保護者が身近な施設で本と触れ合える環境づくりを整備していきます。

取組10. 分館の図書資料の整備

担当 図書館

市内3か所の分館の資料を充実させ、子どもたちがいつでも気軽に本が手に取れるよう読書環境を整備します。また、新図書館移転に伴い、南町地区への分館の設置を検討します。その他、公益施設の整備にあたって、必要な検討を行います。

取組11. 青少年の読書活動の支援

担当 図書館

図書館では、蕨高校や武南高校のおすすめ図書を館内に展示することで、青少年の読書意欲の向上を支援します。

新図書館では、青少年用図書の整備・提供や青少年の読書活動を支援するため、YAコーナーを増設し、本を手に取りやすい環境の整備をしています。

取組12.「子ども読書の日」と「蕨市健やかメディア宣言」等の普及・啓発

担当 図書館

図書館では、子ども読書活動の普及・啓発のため、「子ども読書の日」や「子ども読書週間」のポスターの掲示や、「子ども読書の日」にちなんだイベントを実施します。また、こうした普及啓発を通して、子どもたちが積極的に読書活動を行う意欲を高めていくよう支援していきます。

電子メディアを目的を持って活用できるよう「蕨市健やかメディア宣言」の普及・啓発を行います。

取組13. 図書館の充実

担当 図書館

多様な子どもたちの読書機会を確保するとともに、家庭でもない学校でもない落ち着いた空間として、図書館が見直されています。子どもたちにとって居心地の良い場所を提供するとともに、読みたい本を読むことができ、知識をより豊かにすることができる場所・読書の楽しみを知ることができる場所としての読書環境の整備を新図書館に向けて取り組んでいきます。

①図書館のDX化

図書館のDX（デジタルトランスフォーメーション）を新図書館に向けて進めていき、業務の効率化を図っていきます。

新図書館ではICTを積極的に活用し、図書資料にICタグを貼付することで、一括で貸出・返却を行うことが可能となり、業務時間の短縮を図ります。また、館内にWi-Fi環境を整備し、インターネットへのアクセスを可能にし、館内でコンピュータを円滑に使えるよう支援します。

自宅や外出先等、いつでも読み聞かせや読書ができるよう、アクセス制限のない読み放題パックの絵本や電子書籍を充実させていきます。

②図書館設備の充実

ユニバーサルシートを備えた障害者用トイレなどバリアフリー関係設備を整備するとともに、点字図書資料や、多言語図書資料・拡大読書機の整備・提供に取り組んでいきます。

③アクセシブルな図書コーナーの作成

図書館移転に伴い、新たに読書バリアフリー法、読書バリアフリー計画を踏まえ、点字図書資料やLLブック等の特別に配慮したアクセシブルな図書資料コーナーの作成に取り組んでいきます。

④子どもの居場所としての図書館

家庭でも学校でもない落ち着いた空間として図書館が見直されており、新図書館移転後も引き続き子どもたちが立ち寄りやすく、心地よい居場所づくりを目指していきます。

資料

第3次蔵市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要領

(設置)

第1条 第3次蔵市子ども読書活動推進計画（以下「読書計画」という。）を策定するため、読書計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 読書計画の策定に関すること。
- (2) その他読書計画に係る重要事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員長及び委員若干人をもって組織する。

2 委員長は教育部長をもって充て、委員は職員のうちから教育委員会が任命する。

3 委員長は、会務を総理する。

4 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、令和5年5月1日から令和6年5月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、蔵市立図書館において処理する。

(委任)

第7条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要領は、令和5年4月20日から施行する。

(有効期限)

2 この要領は、令和6年5月31日限り、その効力を失う。

第3次蔵市子ども読書活動推進計画策定委員名簿

所属	役職	氏名
教育部	部長	渡部 幸代
健康福祉部	次長（子ども未来課長）	福田 望
健康福祉部	副参事（福祉・児童センター所長）	関 久徳
教育部	次長（学校教育課長）	小山 晃弘
教育部	次長（生涯学習スポーツ課長）	加納 克彦
保健センター	所長	安治 直尚
教育総務課	課長	田中 昌継
中央公民館	館長	鈴木 啓文
図書館	館長	佐藤 昌史

任期：令和5年5月1日～令和6年5月31日